

発掘成果をふりかえって 1998

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

千年以上の永きにわたり日本の首都として存続した京都には、史跡・名勝を含め、700箇所以上の遺跡があります。1998年の調査は50件を数え、多くの貴重な情報を得ることができました。

今年の調査で注目されるのは、豊臣秀吉が創建した方広寺跡、弥

生時代の竪穴住居跡で柱根と木製の桶が見つかった大藪遺跡などです。また、平安京右京三条二坊十四町では馬を描いた折敷が発見され、元京都市立竹間小学校跡地で和歌を記した織部焼の向付が見つかりました。ここでは、その成果の一部を紹介します。



調査地点



1 京都大学構内遺跡群 左京区北白川道分町

左は個性的な文様をもつ縄文時代中期から後期の土器の破片と石器。右は弥生時代前期の土器で、壺と笠形をした蓋。



2 大藪遺跡 南区久世殿城町

弥生時代後期の竪穴住居跡には主柱根が2箇所残っており、また外部へ延びる排水溝には丸太を半截した木桶が使われていた。



3 平安京右京三条二坊十四町 中京区西ノ京下合町

道祖大路的東側溝と三条坊門小路の南側溝で画された平安時代前期の宅地では、重複した建物跡と井戸を検出した。



4 平安京右京三条二坊十四町 中京区西ノ京下合町

井戸から出土した折敷底部の両面には、墨で銀面つけた馬が描かれていた。(厚さ0.2cm、長さ27cm、幅10.7cm以上)



5 史跡醍醐寺境内 伏見区醍醐伽藍町

粘土と礎で版築状に固めた12世紀の建物の基礎（東西11m、南北13m）を発見した。下醍醐の子院の堂宇と思われる。



6 伏見城跡 伏見区桃山町

旧道とみられる上板橋通に沿って大名屋敷の石垣とそれともなう石組の側溝が姿をあらわした。



7 方広寺跡 東山区茶屋町（京都国立博物館構内）

南門跡とそれに取り付く回廊の根固めを検出した。南門は多くの絵図に描かれている四足門よりも格式の高い八足門であった。



8 平安京左京二条四坊三町 中京区間之町通竹屋町下る

裏面に「多徒たかわもみちなかてなるめりわたらにはしき中やたへなん」と読める一音が、表には紅葉が描かれていた。



9 京都御所東方公家屋敷群跡 上京区京都御苑

江戸時代後期の石組の両側溝をともなう南北道路と、通りに面して細長い建物を検出した。この通りは、当時の絵図によると二階丁通と呼ばれていた。



10 京都御所東方公家屋敷群跡 上京区京都御苑

幕末期の遺構から出土したクリームウェアと呼ばれるイギリス製陶器の水差しと皿。